

矢原礼三郎 ― 経歴及び著作目録

与小田 隆 一

Reizaburou YAHARA – Career and Bibliography

Ryuichi YOKOTA

【キーワード】 矢原礼三郎 経歴 著作目録 満洲映画協会 「麵麴」 「満州浪漫」

解題

詩人、映画評論家矢原礼三郎は、中国大陸に生まれ、その生涯の大半を現地で過ごした。またその詩も、日本国内に在住した時期のものも含め、殆どが中国大陸を舞台としたものである。中国語に堪能であった矢原は、当時の中国詩壇の状況にも多大な関心を抱いていたようで、自らと親交のあった臧克家を始めとする中国詩人の作品の翻訳を手がけたほか、中国詩人たちの主宰する詩歌雑誌にも中国語詩を発表している。

「外地」である「満洲国」をも含めた広い意味での日本詩壇と、中国現代詩壇との関わりという点から見れば、言わば両者の接点ともいうべき位置に立っていた矢原という人物は、一つの興味深い研究対象となり得るであろう。

ただ、矢原は「内地」では殆ど無名に近い存在だったようで、詩誌、新聞文芸欄への掲載という形で二百篇近い詩を残しながら、管見の限り矢原個人の詩集は存在せず、まとまった伝記資料もない。

この資料は、その空白を補うべく、矢原が同人として参加した文芸雑誌や、「満洲国」の日本語紙などから得られたその経歴に関する断片的な情報をまとめたものである。なお筆者が現時点でその存在を把握している矢原の著作も、同時に目録の形に整理した。

凡例

1. 各年ごとに、その年における矢原の動向、その年に発表された著作の順に配列する。
2. 著作の配列については、掲載紙誌の発行日順とする。月刊誌等で詳細な日付が不明なものは、その月の最後に配列する。
3. 掲載紙誌については、当該著作の初出のものに限り、他紙誌への転載については省略する。
4. 下記の詩については、いずれも題名は同じであるが、内容の全く異なる別の詩であるため、両方とも目録に配列する。
「夜」、「女」、「白河沿岸」、「冬」、「河抄」
5. 題名の前に*を付けたものは、中国語による著作であることを示す。
6. 「麵麴」掲載の随筆のうち、無題のものは内容の冒頭の部分を示す。また、同誌

「文学仲間」欄に掲載のものは、「文学仲間」を題名とする。

7. 経歴については、主に下記の資料を参照した。

- A 新聞：「満洲日日新聞」，「大新京日報」，「満洲新聞」（国立国会図書館所蔵のマイクロフィルム）
- B 雑誌：「麺麴」（日本近代文学館，神奈川近代文学館所蔵），「鵲」，「文芸汎論」（いずれも日本近代文学館所蔵），「九州芸術」（北九州市立中央図書館所蔵），「満洲映画」日文版及び満文版，「キネマ旬報」，「映画評論」，「映画の友」，「映画史研究」（いずれも国立国会図書館所蔵），「満洲浪漫」（国立国会図書館関西館所蔵）
- C その他：那須清編『北京同学会の回想』 不二出版 1995年
北村謙次郎『北辺慕情記』 大学書房 1960年
『中支建設資料整備委員会業務概況』 同委員会 1941年

1915年（大正4年）頃

- ◆ 関東州旅順市巖島町に生まれる。

1928年（昭和3年）頃

- ◆ 旅順中学入学，先輩に詩人・北川冬彦。在学中より詩作を開始。

1932年（昭和7年）

- ◆ 11月 「麺麴」（東京）創刊，同誌同人に参加。

（著作）

山脈の詩（詩歌）	東京「麺麴」第1巻第1号	11月 1日
光の詩（詩歌）	同 上	
夕暮の詩（詩歌）	同 上	
冬の詩（詩歌）	同 上	
ある日の詩（詩歌）	同 上	
小路の詩（詩歌）	同 上	
兵（詩歌）	「麺麴」第1巻第2号	12月 1日
文学仲間（随筆）	同 上	

1933年（昭和8年）

- ◆ 春 旅順中学卒業，官立東京外国語学校に入学。

(著作)		
文学仲間 (随筆)	「麴麴」第2巻第1号	2月 1日
城壁 (詩歌)	「麴麴」第2巻第2号	3月 1日
文学仲間 (随筆)	同 上	
夜 (詩歌)	「麴麴」第2巻第3号	4月 1日
蒙古犬 (詩歌)	同 上	
凍港 (詩歌)	「麴麴」第2巻第4号	5月 1日
驢馬 (詩歌)	同 上	
姑娘 (詩歌)	同 上	
朱廟 (詩歌)	同 上	
無題—畏友近藤綺十郎氏へ (詩歌)	同 上	
無題 (「はじめて…」) (随筆)	同 上	
無題 (「近く氏の…」) (随筆)	同 上	
天山南路 (詩歌)	「麴麴」第2巻第5号	6月 1日
飯店 (詩歌)	同 上	
春 (詩歌)	同 上	
焦燥 (詩歌)	同 上	
待望 (詩歌)	「麴麴」第2巻第6号	7月 1日
砂原 (詩歌)	同 上	
マチ 城街 (詩歌)	同 上	
鉄道の夢 (詩歌)	「麴麴」第2巻第7号	8月 1日
海拉爾での日記 (詩歌)	同 上	
煤けた船室 (詩歌)	同 上	
書物 (詩歌)	同 上	
晩春 (詩歌)	同 上	
無題 (「今僕が…」)	同 上	
無題 (「詩の表現…」)	同 上	
復活の章 (詩歌)	「麴麴」第2巻第8号	9月 1日
ト居 (詩歌)	同 上	
病室 (詩歌)	同 上	
武器 (詩歌)	同 上	
炎暑 (詩歌)	同 上	
戦跡 (詩歌)	同 上	
微痾 (詩歌)	同 上	
文学仲間 (随筆)	同 上	
哨船から (詩歌)	「麴麴」第2巻第9号	10月 1日
朔北 (詩歌)	同 上	
弔砲 (詩歌)	同 上	
王墨林と呼ばれた男 (詩歌)	同 上	
無題 (「先輩の詩型を…」) (随筆)	同 上	

文学仲間（随筆）	同 上	
部落（詩歌）	「麵麴」第2巻第10号	11月 1日
挽歌（詩歌）	同 上	
帰街（詩歌）	同 上	
秋ばんだ丘（詩歌）	同 上	
遊戯（詩歌）	同 上	
無題（「嘗て僕は…」）（随筆）	同 上	
文学仲間（随筆）	同 上	
追悼（詩歌）	「麵麴」第2巻第11号	12月 1日
租界地（詩歌）	同 上	
女（詩歌）	同 上	
夜行（詩歌）	同 上	
朝（詩歌）	同 上	
言葉のデッサン（詩歌）	同 上	
無題（「最近僕は…」）（随筆）	同 上	

1934年（昭和9年）

- ◆ 春 東京外国語学校を卒業（中退？）
- ◆ 5月末 北川冬彦とともに日本留学中の中国女優王瑩に面会。
- ◆ 6月 東京を離れ、旅順に戻る。
- ◆ 7-8月頃 「九州芸術」（福岡）同人に参加。9月の同誌第1年2冊に詩2篇を発表。
- ◆ 10月頃 「九州芸術」同人より除名される（理由不詳）。
- ◆ 12月 「麵麴」同人より脱退。

（著作）

冬（詩歌）	「麵麴」第3巻第1号	1月 1日
臨終（詩歌）	同 上	
リトマス試験紙（詩歌）	同 上	
記念日（詩歌）	同 上	
海（詩歌）	同 上	
書簡（随筆）	同 上	
文学仲間（随筆）	同 上	
落日の方（詩歌）	「麵麴」第3巻第2号	2月 1日
或る日（詩歌）	同 上	
女（詩歌）	同 上	
平原（詩歌）	同 上	
初恋（詩歌）	同 上	
文学仲間（随筆）	同 上	

夕暮（詩歌）	「麵麴」第3巻第3号	3月 1日
冬晴（詩歌）	同 上	
雪をなめる（詩歌）	同 上	
冬の咳 春の咳（詩歌）	同 上	
入浴（詩歌）	同 上	
「詩精神」の詩その他（評論）	同 上	
随筆（随筆）	同 上	
合唱（詩歌）	「麵麴」第3巻第4号	4月 1日
白い家（詩歌）	同 上	
列車の歌（詩歌）	東京「記録」4月号	4月
四月の晚餐（詩歌）	「麵麴」第3巻第5号	5月 1日
花（詩歌）	同 上	
夜（詩歌）	「麵麴」第3巻第6号	6月 1日
夢（詩歌）	「記録」6月号	6月
岩塩に就いて（詩歌）	「麵麴」第3巻第7号	7月 1日
真昼の海（詩歌）	同 上	
思ひ出（詩歌）	「麵麴」第3巻第8号	8月 1日
失意（詩歌）	同 上	
白河沿岸（詩歌）	「麵麴」第3巻第9号	9月 1日
百貨店（詩歌）	福岡「九州芸術」第1年第2冊	9月 20日
昼（詩歌）	同 上	
居留地の入口（詩歌）	「麵麴」第3巻第10号	10月 1日
花市抄（詩歌）	同 上	
競馬場一王瑩さんへ（詩歌）	同 上	

1935年（昭和10年）

◆ 10月 「麵麴」第4巻第10号より同誌同人に復帰。

（著作）		
沿海地方（詩歌）	大阪「日本詩壇」第3巻第5号	5月 1日
Nopm Apmyp（詩歌）	「麵麴」第4巻第10号	10月 1日
出発（詩歌）	「麵麴」第4巻第12号	12月 1日
水葬（詩歌）	同 上	
鶉（詩歌）	同 上	

1936年（昭和11年）

- ◆ 1月 「鵲」（大連）第7号より同誌同人に参加.
- ◆ 1月－2月頃 北平に「遊学」, 約2年間滞在し, 北平同学会語学校にて北京語を習得.
- ◆ 7月 同月の「鵲」第10号によれば, 当時北平洋溢胡同（東単交差点東南角一筋目, 現存せず）46号の「俄人大樓」に居住.
- ◆ 8月 旅順の実家に帰省.

（著作）

知らせ（詩歌）	大連「鵲」第7号	1月 15日
北平の歌（詩歌）	同 上	
少年（詩歌）	同 上	
国境（詩歌）	「麵麴」第5巻第2号	2月 1日
王城北平（詩歌）	同 上	
最近支那映画の動向（評論）	東京「キネマ旬報」第566号	2月 11日
氷海（詩歌）	「麵麴」第5巻第3号	3月 1日
出帆（詩歌）	同 上	
冬（詩歌）	奉天「満州日日新聞」	3月 8日
深夜（詩歌）	「鵲」第8号	3月 15日
珈琲店アストラリヤにて（詩歌）	同 上	
廢村（詩歌）	同 上	
北平城外其他（随筆）	「麵麴」第5巻第4号	4月 1日
馬車（詩歌）	同 上	
植民地の子供たち（詩歌）	同 上	
時計（詩歌）	「九州芸術」第3年第9冊	4月 10日
家郷（詩歌）	「鵲」第9号	5月 15日
妹の歌—ある国際都市の秘話（詩歌）	同 上	
河抄（詩歌）	同 上	
北平夜色（詩歌）	「麵麴」第5巻第6号	6月 1日
暗合（詩歌）	同 上	
ある魚族（詩歌）	同 上	
城市断章（詩歌）	同 上	
帰葬（詩歌）	同 上	
都市風光（詩歌）	「鵲」第10号	7月 15日
雷雨（詩歌）	同 上	
荒天（詩歌）	「麵麴」第5巻第9号	9月 1日
末裔（詩歌）	同 上	
河抄（詩歌）	同 上	
初秋の記録（詩歌）	「鵲」第11号	9月 15日

時代の章－郭澄子へおくる（詩歌）	同 上	
帰（訳詩 卞之琳・作）	「麵麴」第5巻第10号	10月 1日
航海（訳詩 卞之琳・作）	同 上	
断章（訳詩 卞之琳・作）	同 上	
民謡（訳詩 臧克家・作）	同 上	
生命の叫び（訳詩 臧克家・作）	同 上	
元宵（訳詩 臧克家・作）	同 上	
訳者付記（評論）	同 上	
支那映画の魅力－覚書風な（評論）	同 上	
海愁（詩歌）	同 上 付録	
北平映画雑誌（評論）	「キネマ旬報」第591号	10月 21日
山荘歌（詩歌）	東京「文芸汎論」第6巻第11号	11月 1日
母に死別する歌（詩歌）	「鵲」第12号	11月 15日
望街（詩歌）	同 上	
北平だより（随筆）	「満州日日新聞」	11月 19日 (11月20日まで2回連載)
十月号の読後感（随筆）	「文芸汎論」第6巻第12号	12月 1日
わが故郷を語る（随筆）	同 上	

1937年（昭和12年）

- ◆ 4月－5月頃 「鵲」同人より脱退。
- ◆ 6月30日 満洲文話会結成とともに、同会に加入。
- ◆ 10月－11月頃 北平から新京に移り、満洲映画協会に入社、製作部に配属される。
- ◆ 12月 満映映画「七巧図」の監督を担当、製作に入る。

（著作）

塞外地方（詩歌）	「麵麴」第6巻第1号	1月 1日
残瀝（詩歌）	同 上	
帰郷歌（詩歌）	同 上	
北平初冬（詩歌）	同 上	
一笑ひ（訳詩 胡適・作）	同 上	
月夜（訳詩 胡適・作）	同 上	
一念（訳詩 胡適・作）	同 上	
十一月二十四日夜（訳詩 胡適・作）	同 上	
訳者付記（評論）	同 上	
離別歌（詩歌）	同 上 付録	
朔旦（詩歌）	「鵲」第13号	1月 15日
クリスマスの夜（詩歌）	同 上	

寄港地（詩歌）	同 上	
支那映画雑録－支那映画鑑賞の一方法（評論）	東京「映画評論」1月号	1月
城外（詩歌）	「麵麴」第6巻第2号	2月 1日
支那映画展望（評論）	「満州日日新聞」	2月 17日
	（2月19日まで3回連載）	
*夜之記録（詩歌）	天津「海風」第1巻第5・6期合刊	3月 20日
記憶の薄暮（詩歌）	「満州日日新聞」	5月 18日
黄塵日記（詩歌）	「文芸汎論」第7巻第6号	6月 1日
支那映画界に於けるソヴェート映画の要素（評論）	「キネマ旬報」第613号	6月 11日
故地（詩歌）	「麵麴」第6巻第6号	7月 1日
一日（詩歌）	同 上	
正午の夏（詩歌）	「満州日日新聞」	7月 18日
辺塞哀愁（詩歌）	「麵麴」第6巻第8号	8月 1日
支那映画の新動向（評論）	同 上	
午砲（詩歌）	「麵麴」第6巻第9号	9月 1日
支那映画の精神（評論）	「映画評論」9月号	9月
喪失記（詩歌）	「文芸汎論」第7巻第10号	10月 1日
白河沿岸（詩歌）	「満州日日新聞」	10月 2日
塞北断章（詩歌）	「満州日日新聞」	10月 5日
北平春愁（詩歌）	「満州日日新聞」	10月 7日
麦雨の歌（詩歌）	「麵麴」第6巻第10号	11月 5日
日時計（詩歌）	同 上	
*由中国電影談到日本電影（評論）	新京「満洲映画」満文版創刊号	12月 1日
支那の映画女優（評論）	東京「映画の友」12月号	12月

1938年（昭和13年）

◆ 10月 「満洲浪漫」（新京）創刊，同誌同人に参加。

（著作）		
送別（訳詩 江岳浪・作）	「麵麴」第7巻第1号	1月 1日
車中（訳詩 邵冠祥・作）	同 上	
希望（訳詩 邵冠祥・作）	同 上	
時間（訳詩 邵冠祥・作）	同 上	
新京の夜（詩歌）	「満洲映画」日文版第2巻第2号	2月 1日
*略談満洲電影（評論）	「満洲映画」満文版第2巻第3号	3月 1日
ストーリー「七巧図」（翻訳 裕振民・作）	「満洲映画」日文版第2巻第3号	3月 1日

「七巧図」の主演俳優たち（随筆）	「満洲映画」日文版第2巻第5号	5月 1日
満洲映画に関するノート（評論）	「キネマ旬報」第646号	5月 21日
黄昏前（詩歌）	新京「大新京日報」	7月 14日
半島（詩歌）	「大新京日報」	7月 21日
五月の風の中で—松本光庸氏に（詩歌）	「大新京日報」	8月 13日
雨（詩歌）	「満洲映画」日文版第2巻第8号	9月 1日
霧宿（詩歌）	新京「満洲浪漫」第1輯	10月 27日
支那サイレント映画の魅力（評論）	「映画評論」10月号	10月
蘇哥刺の記憶（翻訳小説 葉靈鳳・作）	新京「満洲新聞」	11月 23日
	（11月25日まで2回連載）	
花の勲章（詩歌）	「満洲新聞」	11月 27日

1939年（昭和14年）

- ◆ 1月 「中支映画会社」（中華電影公司のことか？）入社のため上海へ。上海虹口地区崇智路の新上海ホテルに滞在。
この間中日青年を網羅する文化連盟の設立を構想。
- ◆ 8月 中支建設資料整備事務所編訳部勤務のため南京へ。

（著作）

北方の人（詩歌）	「満洲日日新聞」	1月 27日
果物船（詩歌）	「満洲新聞」	3月 21日
上海生活記（随筆）	「満洲日日新聞」	4月 28日
	（5月5日まで5回連載）	
支那映画界近状（評論）	「満洲映画」日文版第3巻第7号	7月 1日
黄昏の訪問（詩歌）	「満洲浪漫」第3輯	7月 23日
李公館の朝餉—北京の思ひ出（詩歌）	「文芸汎論」第9巻第9号	9月 1日
昔話（詩歌）	「満洲新聞」	9月 27日
上海の夏（随筆）	「文芸汎論」第9巻第10号	10月 1日
南京通信（随筆）	「満洲日日新聞」	10月 25日
	（10月26日まで2回連載）	
支那水利関係資料目録（翻訳）	南京 中支建設資料整備委員会	11月 25日
支那映画探求記（評論）	「映画評論」12月号	12月

1940年（昭和15年）

（著作）

淮史述要（翻訳）	中支建設資料整備委員会	3月
----------	-------------	----

南京の巷にて（詩歌）	「満州日日新聞」	5月 13日
燐寸工業報告書（翻訳）	中支建設資料整備委員会	7月
国際連盟技術専門家水利調査報告書（翻訳）	中支建設資料整備委員会	11月

1941年（昭和16年）

（著作）

支那各省農業労働雇傭習慣及需給状況（翻訳）	中支建設資料整備委員会	2月
江西省経済事情（翻訳）	中支建設資料整備委員会	3月
支那映画圈の批評苑確立（評論）	「映画評論」11月号	11月

1942年（昭和17年）

- ◆ この頃までに南京を離れ、新京の満洲映画協会に戻り、啓民映画部啓発課に勤務。
- ◆ 9月 この頃満洲詩人会（大連）に加入。

（著作）

景風（詩歌）	「満洲新聞」	7月 17日
記録（北京）（詩歌）	大連「満州詩人」第9号	9月 1日
海岸線（詩歌）	「満洲新聞」	9月 5日
支那映画の観点（評論）	「映画評論」10月号	10月
記憶（詩歌）	「満州詩人」第10号	11月 1日
満映作品への断想（評論）	「映画評論」12月号	12月

1943年（昭和18年）

（著作）

水師営（詩歌）	「満州詩人」第11号	1月 1日
十年（詩歌）	新京「芸文」第2巻第2号	2月 1日
秋（詩歌）	撫順「断層」2月号	2月
その人—黄天始氏に（詩歌）	「満州詩人」第13号	5月 1日

1946年（昭和21年）

- ◆ この当時、上海に滞在。

（著作）

中国映画界の近況（評論） 「キネマ旬報」再建第16号 7月 15日

1948年（昭和23年）

◆ この頃までに東京に引き揚げていたものと思われる。

（著作）

『中国の現代文化』「映画」の項（評論） 東京 中国研究所 9月 30日

1949年（昭和24年）－1950（昭和25年）頃

◆ 東京にて死去（享年34－35歳）。